

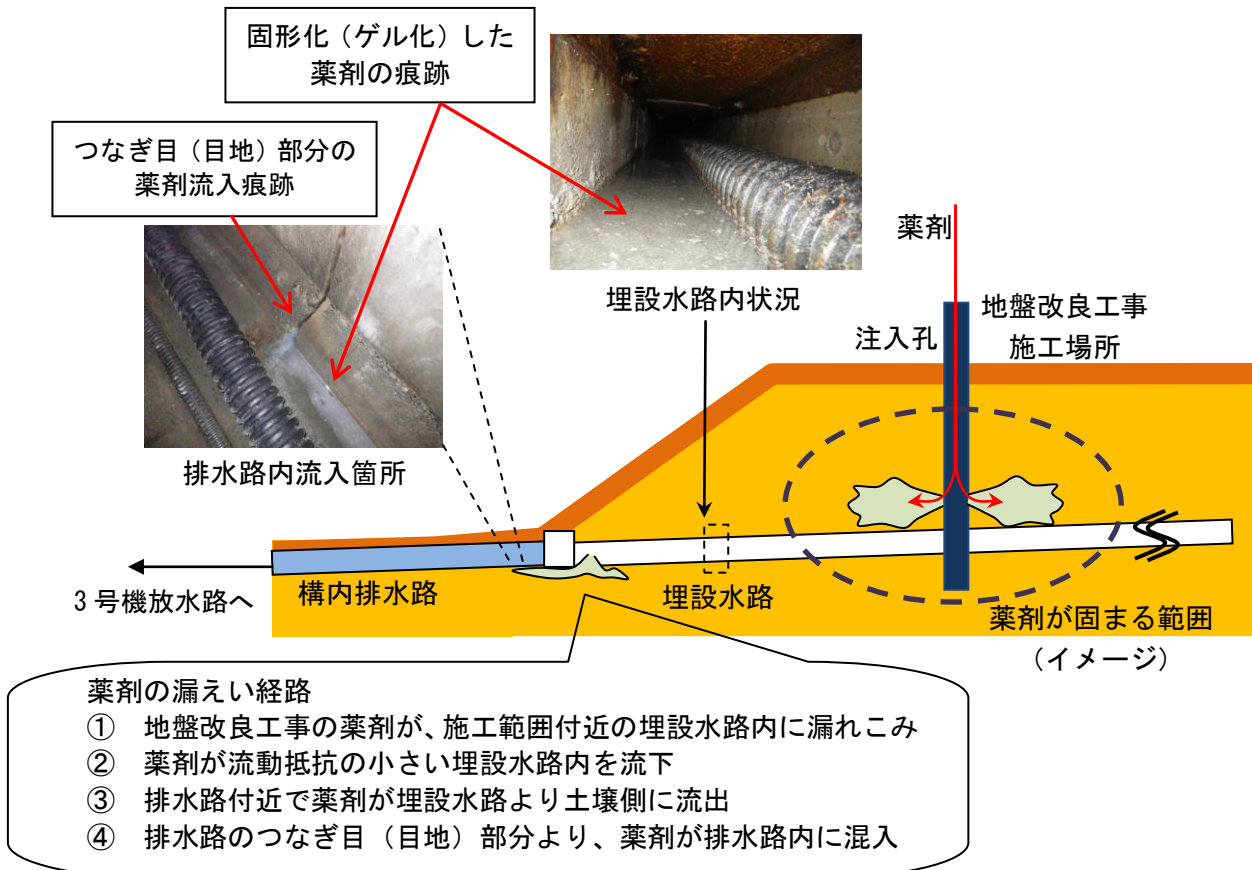
# 浜岡原子力発電所 発電所構内排水路の白濁について(続報)

2014年9月26日

## 【今回お知らせする内容】

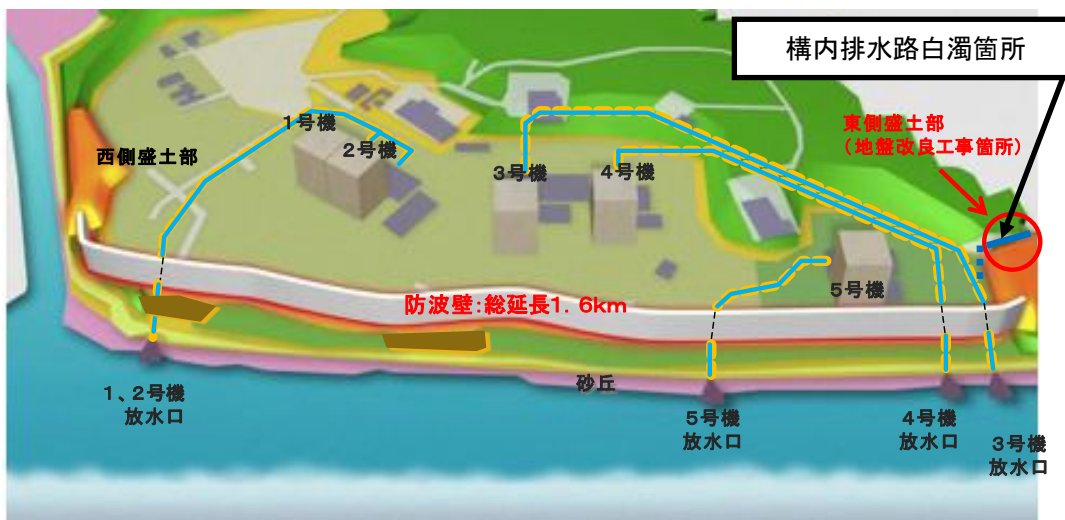
<p>原因</p>	<p>排水路内の調査において、地盤改良工事に用いた薬剤の流入痕跡を排水路のつなぎ目(目地)部分に確認しました。これにより、浜岡原子力発電所構内の排水路の水が白濁した原因は、地盤改良工事に用いた薬剤が排水路に混入したためであるとわかりました。</p> <p>また、薬剤が排水路に混入した経路の調査において、地盤改良施工範囲から当該排水路につながる埋設水路<sup>※1</sup>内に薬剤の痕跡を確認しました。このため、地盤改良工事のため注入した薬剤が施工範囲付近の埋設水路内に流れこみ、流動抵抗の小さい埋設水路内を流下することにより、想定していた地盤改良施工範囲を超える位置まで薬剤が広がり、排水路内への混入に至ったものと推定しました。</p>
<p>対策</p>	<p>当該埋設水路からの薬剤流出防止対策として、埋設水路内へコンクリートを注入し、流出経路を塞ぎました。また、排水路のつなぎ目(目地)部分をモルタル充填により塞ぎました。</p>

※1 当該埋設水路は東側盛土工事前まで用いていた水路であり、東側盛土工事に伴う水路変更により、現在は使用していない水路です。



<p>発生場所</p>	<p>浜岡原子力発電所構内</p>
<p>発生年月日</p>	<p>2014年9月13日</p>
<p>発生時の状況</p>	<p>2014年9月13日午前7時頃、発電所構内排水路(周辺防護区域外)において、排水路内の水が白濁しており、魚が浮いていることを協力会社社員が確認しました。</p> <p>当社社員にて、ただちに現場を確認するとともに、土壌により当該排水路内の白濁した水を発電所敷地外へ流出させないための堰をつくりました。</p> <p>白濁した水はゼリー状であり、当該排水路の付近でおこなっている安全性向上対策のための地盤改良工事用の薬剤<sup>※1</sup>が水と混合したときの性状と類似していること、および白濁した水の分析結果から、この薬剤であると推定しています。</p> <p>また、当該排水路は3号機放水路につながっていることから、放水路の水について分析したところ、一般排水の基準内であり、白濁による影響がないことを確認しました。</p> <p>排水路内の白濁した水は、バキューム車にて回収しました。今後、白濁の原因と推定している薬剤が当該排水路内へ混入した経路を調査するとともに、引き続き排水路に異常がないか監視し、適切に対応します。</p>
<p>放射能の影響</p>	<p>本事象は、放射性物質の漏えいに関わる事象ではありません。</p>
<p><u>お知らせ基準</u></p>	<p>運転情報「表 2-18 その他の事象であって、公表が望ましいと判断したもの」に該当します。</p>

※1 薬剤(水ガラス)は、珪酸ナトリウムまたは珪酸ソーダと呼ばれており、単一の化合物ではなく、 $\text{SiO}_2$ (無水珪酸)と $\text{Na}_2\text{O}$ (酸化ソーダ)がいろいろな比率で混合している液体です。



以上